

2022

冬期募金に ご協力ください。

世界の人々と、共に生きるために



JOCSの保健医療活動にご協力ください。

JOYJOYプロジェクトのデイケアに通うタヒン(4歳)


JOCS

医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

JOYJOYの子どもたち

Bangladesh派遣ワーカー **岩本直美** (看護師)



オートリキシャに乗り込む岩本さん(右)とスタッフたち

13歳のラキブと初めて出会ったのは、2カ月ほど前のことだ。家の柱に片足をしばられ、突っ立ったまま身体を左右に揺らしていた。ラキブの父親は薬物中毒で暴力がひどく、母親は、ラキブともうひとりの子どもを連れて夫から逃げ、兄夫婦の家で暮らしてきた。兄の妻は乳飲み子を抱えているがラキブをよく受け入れ、歩きながら排泄する彼の世話をしてくれている。しかし一歩外に出れば戻る道を見失うラキブを守るために、彼の足を縛るしかないと家族は言う。近所の人たちはラキブを「パゴール(狂人)」と呼んだ。母親は肩身を狭くしながら

ら、日銭を稼ぐために早朝から午後まで隣家の掃除や洗濯をしている。ラキブの眠りは浅く、深夜家の中をウロウロして過ごすため、母親はいつも疲れた表情で、また言葉にとげがあった。

JOYJOYプロジェクトのスタッフたちは、ラキブをプロジェクトのデイケアに迎えることをためらうふうであったが、実際受け入れると、この瞳の澄んだ少年はとても穏やかで、足を縛る必要はなかった。ただ歩きながら排泄することは同じで、ズボンを下げることも知らなかった。しかし、トイレに伴い一緒にしばらく立っていると放尿するようになった。食事のときはお皿に盛られたご飯を前にして、無表情にそれを見つめるばかりだったが、右の手のひらにご飯を乗せその手を口元にいざなうと、それは食べた。幼いころから何も教わってこなかったことが見て取れた。

毎日デイケアに彼を迎え、一方で医師を探した。ラキブが夜適度に眠れ、家族も休めるよう図りたかった。母親は仕事を休んで、ラキブを



ラキブ

に伴い医大病院にやってきた。13歳のラキブには、膝上の半ズボン姿は適当ではなかった。母親に長ズボンがないかと問うと、「あんたたちが作ってよ、そんな金ないわよ」とにべもなかった。お金がないのは本当だが、服装に気を配るころの余裕もないということだろう。

内服治療が始まり、ほどなくしてラキブは眠れるようになった。母親は「夜、寝るようになった」と初めて笑顔を見せた。時間を決めてトイレに誘導することで、ラキブが歩きながら排泄することもほとんどなくなった。食事も、右手でご飯をすくうように教えると、ひと月ほど自分からご飯に手を伸ばすようになった。いつのまにかラキブの服装にも変化が現れた。おしゃれなシャツや長ズボンだ。その楽しい色柄が母親のころを映しているようで、私も思わずうれしくなった。

最近ラキブが練習しているのは屈む姿勢だ。屈んでトイレができるようになれば、その分生活しやすくなる。家の出入口の扉を修繕し鍵をつける予定であることも母親から知らされた。そうなればラキブが足を縛られることもないだろう。

バドンは8歳になるダウン症の男児で、野猿のようにいつも外を走り回っていた。近隣で物がなくなれば常にバドンのせいとされた。父親は薬物中毒で、母親は軽度の知的障がいがある。これまで何度も借家を追い出されたが、

最近では理解のある大家さんのおかげで、ほとんどただのような家賃で暮らしている。しかしここ数カ月、そ



バドン

の支払いが滞っているという。とにかく暮らしを維持できるよう、2人の障がい者手当を取得することを優先した。まずバドンの出生届を作成し、社会福祉事務所にかけ合った。難関は、バドンと合わせて母親についても医師の診断書を得ることであった。障がい軽度の場合、容易には信用してもらえない。障がい者手当を目的に、偽装して診断書を取得しようとする人が多いからだ。涙ながらに医師に訴え、何とか診断書を取り付けることができた。一方デイケアではバドンの安全を図るため安全柵を備えたが、ややもするとこのいたずらっ子はそれを乗り越えそうな気配だ。

ラキブとバドン。その家族の暮らしが続いていくよう、地域や行政の人たちと協働しながらこの地で関わりを続けていきたい。

JOYJOYプロジェクト

Bangladesh北部の町ディナジプールで、今年始められたプロジェクト。現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援しています。



サポート会員になりませんか？

ぜひJOCSサポート会員として、活動を継続的に支えてください。日本から祈り、支えるJOCS会員の存在は、海外で働くワーカーや奨学生たちの大きな励みになっています。ご入会の条件はありません。またいつでも退会可能です。

クレジットカード
なら
月々**500**円から

サポート会員になるには

- ▶ 同封の払込票で→「入会します」にを記入ください。
- ▶ ウェブで→JOCSホームページ (<https://www.jocs.or.jp/support/member>) または右のQRコードからお申し込みください。



サポート会員には、会報誌『みんなで生きる』（隔月発行）をお届けします。

ご支援くださっている方々の声

会報誌で現地の方々の笑顔の写真を拝見したり、夢が実現した話を読んだりすると、JOCSに入会してよかったと思います。

会報誌で奨学生の記事を読むと、JOCSの支援が確実に届いていることがわかります。そして、私ひとりにはほんの小さなことしかできないけれど、皆の力が合わされば人を支えられるのだと実感できます。会報誌を読むたびに、感謝と喜びを感じます。

社団法人としてのJOCSを構成する「社員会員」という制度もあります。社員会員をご希望の方は、払込票の余白に「社員会員」とご記入ください。
※社員会員は、総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権を持ちます。※社員会費は寄付金控除の対象とはなりませんので、ご了承ください。
※社員会員の名簿は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣府に提出します。

ご支援はこのように用いられます

約**3,000**円 → ネパールで看護学修士の学生の1年分の教科書代*になります

約**8,000**円 → タンザニアの医学部の1年分の教科書代*になります

約**60,000**円 → インドネシアの専門看護師になるための1年分の学費*になります
(*学生一人当たり)

ご寄付の方法

郵便振替

ゆうちょ銀行

口座：日本キリスト教海外医療協会募金部
記号番号:00170-3-13986

銀行振込

三井住友銀行 高田馬場支店

口座：日本キリスト教海外医療協会
口座番号：普通 4186361

クレジットカード

今回のみご支援くださる場合には、**1,000円以上の金額でお申し込みください**ホームページ (<https://www.jocs.or.jp/>) 右上のオレンジ色のボタンまたは右のQRコードからお手続きください。

銀行からのお振込やネットバンキングでは、JOCSには口座名義人の名前しか通知されません。ご送金の際には、お名前、ご住所、電話番号をメール(info@jocs.or.jp)またはFAX、郵送で東京事務局まで必ずお知らせください。



- 📌 当会へのご寄付、サポート会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。
- 📌 遺産・相続財産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は東京事務局までご連絡ください。

* 当会へのご寄付、会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

個人情報の取り扱いについて 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護を行っています。詳しくはJOCSホームページの「プライバシーポリシー」(<https://www.jocs.or.jp/privacy>)をご覧ください。

| | | |
|--------|------|---|
| JOCS役員 | 会 長 | 畑野研太郎 (医師) |
| | 常務理事 | 大友宣 (医師) |
| | 理 事 | 植松功 (自営) 土居弘幸 (医師) 中嶋裕一 (高校校長) 名取智子 (JOCS事務局次長) 東岡牧 (看護師) |
| | | 本田まり (大学教員) 森田隆 (JOCS事務局長) 柳澤理子 (保健師、大学教員) |
| | 監 事 | 榛木恵子 (団体役員) 渡部芳彦 (歯科医師、大学教員) |

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

ホームページ <https://www.jocs.or.jp> E-mail info@jocs.or.jp

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話:03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話:06-6359-7277 FAX:06-6359-7278